

< WLC : 12th World Leisure Congress 報告 >

第12回世界レジャー会議（イタリア リミニ）報告

田中伸彦¹

A report on the 12th World Leisure Congress (WLC) Rimini, Italy 2012

Nobuhiko Tanaka¹

1. はじめに

2012年9月30日から10月3日にかけて、イタリアのリミニ市で、第12回世界レジャー会議（World Leisure Congress : WLC）が開催された。大会期間中には、おおよそ40の国や地域から、研究者を中心に行政担当者や実務家が集まった。そして、基調講演、招待講演者によるワークショップに加え、口頭・ポスターを合わせて200題あまりの一般研究発表¹⁾が行われた²⁾。

WLCはレジャー研究分野では最も大きな国際会議のうちの1つに数えられ、世界レジャー機構（World Leisure Organization : WLO）により、原則2年に1度開催されている。WLOとは、本学会とも繋がりのある国際学術団体である³⁾。

前回（第11回）のWLC大会は、2010年に、お隣の韓国の春川で開催された。春川大会の模様については、ちょうど昨年11月に上智大学で開催された「レジャー・レクリエーション学会第42回学会大会」における金俊希女史の基調講演で報告があったので、記憶に新しい方も少なくないのではないと思う。また、春川大会の概要については、2011年3月発行の本誌第67号で、上智大学の師岡文男氏²⁾ならびに筆者³⁾が寄稿しているので興味のある方はそれらも参照されたい。

前回の春川大会は、日本から距離も近く、8月末から9月初めにかけて、つまり日本の多くの大学ではまだ夏季休暇中に行われたため、数多くの日本人出席者が見られたが、今回のイタリアリミニ大会は日本から遠く、多くの大学で秋学期が開講されている時期と重なるということもあり、必ず

しも日本人の出席が多かったとは言えない。筆者の確認する限りでは日本人参加者は7～8名程度だったのではないと思う。

また、前回の春川大会ではWLCだけではなくワールドレジャーゲームズという競技大会や、世界レジャー展示会という博覧会が同時に開催されていたため、研究・行政・実務者に留まらず、アスリートや一般市民、家族連れ、小中学校の遠足などの多様な人々に賑わっていた。それに比べると今回のリミニ大会はWLC一本ということで、大人の集まりとしての落ち着いた雰囲気を醸し出していた。

2. 研究発表の概要

研究発表はリミニ市の中心部から歩いて15分程度のところにある「リミニコンgresセンター（Palacongressi di Rimini）」で行われた（写真1）。

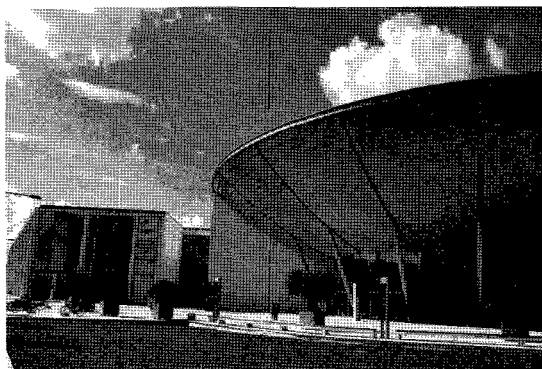


写真1 リミニコンgresセンター

大会テーマは「変わりゆく街、変わりゆくレジャー (Transforming City, Transforming Leisure)」とされ、そのテーマに関わるセッションを中心に大会プログラムが構成されていた。

初日 (9月30日) の午前に、参加者が一堂に会して「街で拡大するレジャーへの需要 (The Growing Demand for Leisure in Cities)」と題されたキーノート・スピーチ (写真2) が行われたことを皮切りに、各会場に分散して招待講演者によるワークショップ、口頭発表セッションなどが同時並行で連日開催された。セッションの総数は80あまりに達した。日本からの参加者は、私も含め比較的ポスターによる発表者が多かった (写真3)。



写真2 大会初日のキーノート・レクチャーの様子

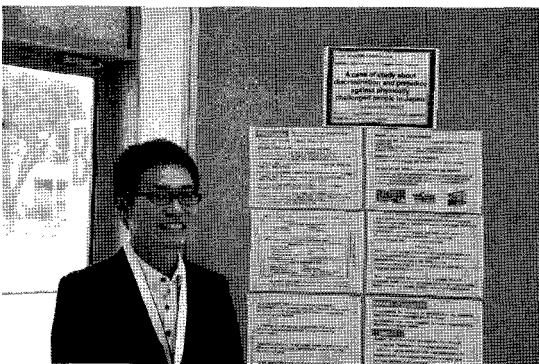


写真3 ポスター発表の一コマ

ワークショップやセッションは気さくな感じで研究交流ができるよう配慮されていた。是非本学会員も多くの方が、このような国際会議へ足を向けてくれることを望む。

3. サイドイベントなど

国際会議に出席する楽しみは、発表セッションで最新の研究成果を知ることだけに留まらない。ウエルカムパーティーやエクスカージョン、開会・閉会セレモニーなど等のサイドイベントで、今まで知らなかった研究者たちとインフォーマルな形で交流を深めることも大切である。

私自身は帰りの航空機の都合で、残念ながら閉会セレモニーまで出席することは叶わなかったが、初日の歓迎立食パーティーやエクスカージョンには出席することができた。

歓迎立食パーティーは、非常にシンプルな形で開催された。会場であるリミニコンgresセンターの入り口付近の大きなオープンスペースを会場に、ケータリング方式で行われた (写真4)。イタリアらしく、パスタやピザ、チーズ、ワインなどを片手に各自銘々に会話を行うという自由な時間を堪能することができた。



写真4 歓迎立食パーティーの一コマ

エクスカージョンは、大会3日目 (10月2日) の午後で開催された。行き先は、大会会場から貸し切りバスに乗って1時間弱で到着するサンマリノ共和国である。サンマリノ共和国は周りを全てイタリアに囲まれている世界で5番目に小さな国である。また、現存する世界最古の共和国国家であることでも知られている。ティターノ山という小高い山 (標高739m) の上に聳え、美しい町並みと見晴らしを誇る天空の小国である。

エクスカージョンでは、50名程度の参加者と共に、専属の現地ツアーガイドの引率のもと国内の山頂や尾根に点在する3つの要塞やサンマリノ

政庁、古い町並みなどを順に見学していった（写真5）。一通りの見学が終わるとディナータイムとなり、サンマリノ国内のレストランでの会食となった（写真6）。



写真5 サンマリノ共和国へのエクスカーシオン



写真6 エクスカーシオン後のディナーパーティー

4. リミニという街

今回会場となったリミニという街についても、若干の説明をしておきたい。

日本人にとってリミニはあまり馴染みのない都市ではないかと思う。私自身、WLCが開催されるということで初めてリミニを知った次第である。実際、市販の旅行ガイドを探しても、リミニを採りあげているものはほとんど見つからなかった。『地球の歩き方 イタリア編』⁴⁾にかろうじて「サンマリノへの入り口」としてこの都市の名前が出てくる程度であった。

しかしながら、日本のガイドブックに掲載されていないからといって、リミニが訪れるに値しない街だということにはならない。筆者は滞在したホ

テルから大会会場まで徒歩で往復していたが、その間に見ることのできる街並みは古くローマ時代からの歴史を残す格調高いものであった（写真7）。また、リミニは、夏の間は近代的な海浜リゾートとしてイタリアや周辺各国の国民に愛されているデスティネーションでもある。筆者らが滞在した9月末から10月は、すでにオフシーズンに入っていて、ビーチリゾートとしての喧噪・賑わいは無かったが、広大な砂浜には完成度の高い砂の彫刻が点在し、散策する観光客の目を楽しませていた（写真8）。



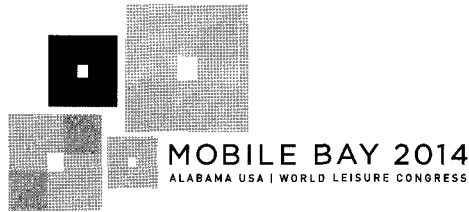
写真7 リミニ市内に残されているローマ時代の凱旋門



写真8 オフシーズンのビーチには美しい砂の彫刻が並ぶ

5. 次回のWLC大会

リミニ大会では、次回大会の紹介も行われた。WLCの第13回大会は米国アラバマ州のモービル・ベイ（Mobile Bay）で開催される予定である（図1）。



Mobile Bay, Alabama, USA Welcomes the World Leisure Congress 2014 September 7 - 12, 2014 | Leisure And the Human Condition

WHY MOBILE? Home of international corporations, baseball greats, giant oak trees and America's First Mardi Gras, Mobile is one of the oldest cities along the Gulf of Mexico and offers a colorful, vibrant way of life. Beautiful waterways and unique eco-systems along Mobile Bay are the lifeblood to the region's lifestyle of leisure.

Leisure activities abound in Mobile – The Robert Trent Jones Golf Trail, numerous museums, exciting festivals and concerts, dozens of antique shops and art galleries and significant historical landmarks contribute to this cultural hub. With one of the largest estuary systems in the United States, residents and visitors alike can enjoy an abundance of outdoor recreation including canoe/kayak trails, Delta tours, deep-sea fishing, sailing and more.

Baseball legend, Hank Aaron, is the WLC honorary chairman – born in Mobile, this native son has taken leisure to a legendary level and is a member of the Baseball Hall of Fame. Mobile's baseball stadium is named after Aaron and his childhood home has been relocated to the stadium and is now a museum open to the public.

- Location: Mobile Bay, Alabama and the Gulf Coast Region
- Website: Sign up for the Mobile 2014 e-newsletter at: www.worldleisure2014.org
- Event Overview: Six days of events, keynote speakers, seminars and entertainment
- Meeting Venues: The riverfront Mobile Convention Center, the University of South Alabama, Hank Aaron Stadium, Bishop State Community College, Gulf Quest Maritime Museum, the Mobile Carnival Museum, USS ALABAMA Battleship Park, Gulf Coast Exploreum and Science Center and more.
- Community Events: Sports & Recreation: Golf, Baseball, Tennis, Soccer, Fishing, Sailing, Running, Polo and others
Cultural: Concerts, Symphony, Ballet, Art Exhibitions, Historical Tours, Parades and Festivals
Eco-Tourism: Canoe and kayak trails, tours of the Delta, fishing (in-land and deep-sea), bird trails, bicycle tours
- Accommodations: Six hotels within walking distance of the Convention Center in historic downtown, including the four-Diamond Renaissance Battle House Hotel & Spa and the four-Diamond Renaissance Mobile Riverview Plaza Hotel.
- Air Lift: The Mobile Regional Airport will be offering special rates for World Leisure Congress delegates. There are also several other airports within a three hour drive: Pensacola (1 hour), Gulfport/Biloxi (1 hour) New Orleans (2 ½ hours).

www.worldleisure2014.org

図 1 2014 年 WLC 米国モービル・ベイ大会の案内

期間は2014年の9月7日から12日であり、この時期であれば日本の大学でもまだ講義期間中ではないところが多いのではないかと考えられる。是非、本学会員を初めとする多くの日本人がWLCにエントリーして、各国の研究者、行政担当者、実務家らと交流を深めてくれることを望む。

多くの方がご承知の通り、昨年11月の学会大会の折に、南アラバマ大学（University of South Alabama）のErwei Dong博士が、「日本からも積極的に2014年のWLC大会へ参加してほしい」と、わざわざ上智大学まで足を運び、PRしてくれた。我々もその期待に応えたいものである。

6. おわりに

レジャー・レクリエーションに関わる研究は、世界各国で行われている。もちろんレジャー・レクリエーション研究は日本でも行われているわけであるが、近年の動向を見ると不況による雇用不安などの懸念からか、声高にこの研究分野が喧伝される機会が減少していると感じている。

しかしながら、世界各国の研究者と交流し、グローバルな情勢を判断すれば、決してレジャー・レクリエーション研究が下火になっていることはない。レジャーやレクリエーションは、人間が、より人間らしく暮らすための基礎であり、文化の土台となるものである。人類にとって欠かすことのできない英知なのである。

現在、我が国では、レジャーやレクリエーションに関わる大学の学部学科や行政機関が縮小される傾向にあるが、世界的に視野を広げれば、決してそういう状況にはなっていない。

ギリシャ時代から延々と論理的にレジャーの本質を考察してきた欧州の様な国々には、まだまだ

日本の情勢は追いつかないかもしれない。しかし、どの国においても人間が生きる本質として、レジャー・レクリエーション研究が必要なことは間違いない。その様な事実を肌で感じるためにも、是非学会会員の多くの方々にWLCを初めとするレジャー・レクリエーションの国際大会に出席して頂きたいと思う。

補注

- 註1) 200題という数は、英語で行われた発表数である。このほかにイタリア語のみで行われたセッションもあったが、筆者はイタリア語が理解できないため、割愛させて頂いた。
- 註2) WLOの概要について興味のある方は、本学会HP (<http://jslrs.jp/>) からリンクが張られているので、それを参照されたい。

引用文献

- 1) André Thibault, Ph.D. Editor: Rimini World Leisure Congress Book of Abstracts. 118pp, <http://www.worldleisure.org/userfiles/file/Book%20of%20abstracts%201-12-2013.pdf>, 2012
- 2) 師岡文男：第11回世界レジャー会議と第1回ワールドレジャーゲームズ報告、レジャー・レクリエーション研究 67、107-109、2010
- 3) 田中伸彦：第11回世界レジャー会議（韓国春川）体験記、レジャー・レクリエーション研究 67、111-114、2010
- 4) 地球の歩き方編集室：「地球の歩き方イタリア 2012～2013」、ダイヤモンド・ビッグ社、616pp、2011

